



Tokyo Vision
for Arts
and Culture

東京文化ビジョン

[概要版]

TOKYO VISION FOR
ARTS AND CULTURE

平成27(2015)年3月

東京都

TOKYO VISION FOR ARTS AND CULTURE

- 3 知事あいさつ
- 4 多彩で奥の深い文化都市・東京
- 6 東京文化ビジョンの性格及び理念
- 8 東京文化ビジョンの文化戦略と主要プロジェクト
- 10 文化戦略 1
- 13 文化戦略 2
- 18 文化戦略 3
- 20 文化戦略 4
- 22 文化戦略 5
- 24 文化戦略 6
- 26 文化戦略 7
- 28 文化戦略 8
- 30 東京文化ビジョンの実現に向けて





六本木アートナイト2014の様子
©六本木アートナイト実行委員会

文化と東京の未来

Tokyo Vision for Arts and Culture

文化から東京の未来を切り拓く——。この文化ビジョンにはそんな思いが込められています。

東京には長い歴史に支えられた伝統文化が息づいています。同時に、世界トップレベルのオーケストラの演奏会、各国の名画の並ぶ展覧会が毎日のように開かれています。歌舞伎や能など日本の伝統芸能ばかりかオペラやバレエなどの西洋芸術、実験的・先端的な現代芸術も盛んで、東京発のアニメ、ゲーム、デザイン、ファッションなどは、常に世界から注目を集めています。ミシュランレストランが世界で最も多い都市、それも東京です。このように東京には既に大きな文化的ポテンシャルが存在しています。それをより確かなものにし、発展させていくこと、それがこの文化ビジョンのねらいです。

オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年は、文化の発展にとって大きなチャンスになります。オリンピック・パラリンピックはスポーツだけでなく文化の祭典でもあるからです。オリンピック憲章の根本原則に謳われる「スポーツを文化や教育と融合させる」ことは、近代五輪の担ケーベルタンの理念でした。

東京都はオリンピック・パラリンピック

の招致を機に、文化政策や文化事業を大幅に強化してきました。2020年には、過去最大と言われる2012年のロンドン大会をしのぐ文化プログラムを実施すべく準備を進めています。しかし、これを一回限りの大規模な文化イベントで終わらせてはなりません。2020年大会のレガシーとして東京を世界のどこにもない文化都市にする。この冊子には、そのための戦略が描き込まれています。

芸術文化は都市の発展になくてはならないものです。最近、その社会的なインパクトの大きさや裾野の広さに注目が集まっています。教育や福祉、地域活性化などの分野において、芸術文化が大きな成果を上げ、障害者の芸術表現にも未知の可能性が秘められています。創造産業の成長や文化振興にも芸術文化の果たす役割は小さくありません。都市に新たな活力やエネルギーを与え続ける存在、それが芸術文化です。

この文化ビジョンは2015年から2025年までの10年間をターゲットにしています。都民の皆さま、区市町村や関係機関、民間企業、NPOの方々と手を携え、独自性と多様性を秘めている東京固有の文化価値を育て、世界のどこにもない活力に満ち成熟した文化都市を創り出していきましょう。



東京都知事

山田 新也

歴史に培われた文化の多様性

東京は、多彩な文化に満ちた都市である。近年では先端的なファッション、デザイン、アニメなど、新しい文化の発信地として知られている。しかし、こうした印象を持って訪れる海外からの観光客は、新しい文化と並んで、いにしへの神社仏閣が残り、能や歌舞伎、落語のほか、工芸や祭りなど多くの伝統文化を保有していることに驚かされる。

東京は、日本のソフトウェアや情報産業の売上げの半数以上を占めている。一方、歌舞伎座、国立能楽堂など、伝統芸能のための文化施設が集中している。

多様な文化的要素の集積は、街の構成にも現れており、原宿、秋葉原、浅草のような文化的に特色のある街が多数存在し、独特の活力を持っている。

東京の文化は、しばしば、「伝統と現代の共存」という異なるものの対照として評価される。しかし、そうであるばかりではなく、実は、世界から注目を浴びているファッションやデザイン、ポップカルチャー等における日本独特の感性は、古来の伝統の中で培われてきている。東京の「伝統と現代」は、時間的にも空間的にも連続性があるのである。

数千年の昔から、日本は地震や洪水など、幾多の自然災害に見舞われてきており、粘り強い復興への努力を重ねてきた。海、山、川、大地からの豊かな恵みも、人々の自然への畏敬を帯びた働き掛けと、不断の生活の営みから獲得してきたものである。この歴史的な堆積が「道を極める」精神性や、五穀豊穡を願う芸能を生み出してきた。

さらに、多岐にわたる外来文化を洋の東西を問わずに時代ごとに受容しながら、日本の風土の中で独自の伝統文化を形成、熟成させ、発展させてきた。こうした、様々なも

のを受容し、自然をはじめ万物への畏敬の念を持ち、多様なものの融合や協調を図る精神性が、日本文化の創造性の根源にある。

歴史の中で築かれた文化による市民の結びつき

東京の文化は中世から近世にかけて、京都、大阪などの関西地域で花開いた文化の伝統を受け継いでいる。寺院建築、仮名文学、絵巻物、茶の湯、能楽などがよく知られている。東京の前身である江戸は武士のまちであったが、平和が保たれ、町人たちによる独特の文化が顕著な発展を見せた。歌舞伎や浮世絵が有名だが、これは、一般市民の生活の中に世界的に評価される高度な文化が花開いたという点で、異例とも言える文化である。

江戸時代の文化の発展は、一般市民の広範な結びつきに多くの部分を支えられている。文化によるつながりが、種々の政治的な制度とは別に社会形成の大きな力となっていく。これは、「美と礼節の絆」とも呼ばれ、日本人の礼儀正しさや真摯さ、感性の繊細さなどの一因である。それは、来客に対する心のごもったもてなしの精神にもつながっているだろう。

江戸時代には、市民の間に和歌や俳諧、茶の湯や華道などの趣味を同じくする人の集まりが無数に存在し、多くの人が美的な感性を磨いた。それらの趣味を通じて、身分を越えた交流も行われた。

浮世絵や江戸歌舞伎などは、江戸時代の庶民の生活＝大衆文化から生まれたものである。そのため、活力のある市場が存在し、それが文化の質を高めていった。当時は決して高級芸術のようなものではなかったが、江戸の顧客たちからより高度な技術や内容が求められる中で発達し、世界的に稀



有な芸術が生み出されたのである。

このような職人たちの技術の高さと消費者の目の厳しさは現代にも通じるものである。現代でも伝統芸能の職人数は日本で最も多い。それが近代に至って高品質の工業製品やデザインを生み出すことにもつながった。

「創造者＝消費者」文化の活発化

東京は、一人ひとりが芸術家であり鑑賞者＝消費者でもあるという歴史を持っている。

天皇が千年余りの間お住まいであった京都から皇居にお移りになった明治以降には、華道や茶道などの人口は更に増大した。このような市民の創作活動は現在も盛んであり、例えば、日本の有力新聞には俳句の欄があり、詩人である多数の読者が存在することがうかがわれる。幼少期からピアノ、ヴァイオリン、バレエ、書道などを習う子供は多い。また、市民たちが創作した作品の発表活動も活発に行われている。現在注目を浴びている漫画・アニメなども、庶民の生活から生まれたものと言うことができる。東京では、大規模な同人誌の即売会が開催され、同じ趣味を持つ人々の交流の場となるとともに、次世代の作家を育む場ともなっている。

このような巨大な文化の土台が存在するゆえに、新たな作品が次々と生み出されているのである。

新たな文化の力と可能性を提示する都市・東京

東京は、極めて多くの文化の在り方を提案する都市である。1つの中心や規範が全てを圧倒するのではない。「テクノ・アニミズム」と呼ばれるように、自然や動物のみならず、機械や技術など様々なものに関心を向け、愛情を注ぐ。このように寛容で自由な文化の在り方こそ、「クール」と呼ばれる理由の一つである。

このような柔軟性がある東京では、伝統文化を楽しむこと、また世界各国の文化を受け入れることも盛んである。例えば、隅田川などで行われる花火大会のように、江戸から受け継ぐ伝統行事では、多くの人が浴衣を着て、団扇を持って街を歩くという、伝統的な空間が出現する。各地では古くから伝わる祭りが年間を通じて行われ、盆踊りが地域を活性化させている。ミシュランから評価を得ている多様で洗練された食文化は、世界の食を受け入れ、研究し、改良してきた成果でもある。

グローバル化が進む今後の世界を考えると、文化を通じて、人々の新しい結びつきを生むとともに、多様な価値を受け入れつつ創造を行うという東京が育んできた文化の様式は、ますます重要な意味を持つと考えられる。文化の新たな力を提示可能な都市として、東京の果たす役割は大きい。

ビジョンの性格

- 東京都の芸術文化振興における基本指針
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラム^{※1}の先導的役割
- 国際的に発信する東京の文化政策の世界戦略

ビジョンの理念

東京独自の芸術文化が持つ 多様性を発信する

東京は、日本古来からの精神に裏打ちされた文化に加えて、江戸開府以来、人々が往来する中で多様な芸術や文化を受け入れ発展してきた。このような伝統と現代、東洋と西洋が交錯する都市東京は、世界のどこにもない多彩で奥の深い文化都市である。こうした独自性と多様性が秘められている東京が持つ固有の文化価値を東京のブランド^{※2}として内外に強く打ち出していく。

東京の更なる成長の柱として 芸術文化を位置づける

東京には、多彩な文化的特徴を持ち、個性あふれる文化施設や都民の暮らしに根ざした伝統文化など潜在的な力に満ちた数多くの地域が存在する。東京が更なる成長を続ける上では、芸術文化を都市の装置として重要な構成要素に位置づけ、質的な豊かさの向上とともに経済の活性化を図り、活力に満ちた世界のどこにもない成熟した文化都市を目指していく。



オリンピック・ パラリンピックを契機に 有形・無形の文化レガシー^{※3}を 創出する

2020年オリンピック・パラリンピックは、東京の芸術文化振興を飛躍的に推し進め、東京を世界でも類を見ない独自性を持つ文化都市とする大きなチャンスである。そのため、2020東京大会においてこれまでにない多彩で魅力的な文化プログラムを展開することにより、「人」、「仕組み」、「場」、といった有形・無形のダイナミックなレガシーを創出し、次世代に継承していく。

※1 国際オリンピック委員会(IOC)の「オリンピック憲章」では、「種くともオリンピック村の開村期間、複数の文化イベントを計画しなければならない」と定められている。

※2 東京という都市を他の都市から区別させるもの一つに「東京の芸術文化」を挙げることができるということ。

※3 国際オリンピック委員会(IOC)によると、レガシーとは「長期にわたる、特にポジティブ(肯定的)な影響」と規定されている。五輪大会の開催を契機に施設や道路が整備されることと同様に、芸術文化の分野においても、文化プログラムの展開が、次代の担い手育成や様々な仕組み作りにつなげていくことを示している。



東京を舞台にあらゆる人々の交流と 世界中の芸術家の創造活動を 促進し、芸術文化の力を 世界平和の実現につなげていく

昨今の芸術家は、社会課題と積極的に向き合い、芸術文化ならではの解決方法を生み出す取組を展開している。芸術文化の力は、福祉や教育、地域振興などの社会課題の解決に資する可能性も秘めている。今後は、東京を舞台に、子供や障害者など世界のあらゆる人々が芸術文化を通して交流するとともに、世界中の芸術家が東京を訪れ創造活動を行うことにより、国境を越えた相互理解と地球規模の連帯感を育み、世界平和の実現へとつなげていく。

芸術文化の力で東京を変える 取組を全国に広げ、文化が牽引する 新たな日本をあらゆる人々の力を 結集して創出する

東京は、芸術文化資源を再構築し、新たな可能性を顕在化させることにより、都市としての価値を高め、魅力ある都市として将来に向けて発展し続けることができる。こうした取組を東京だけでなく全国に広げるとともに、国内での文化的交流を加速させ、芸術文化により世界から注目を集める新しい日本を作っていく必要がある。そこで、都、国、自治体をはじめ、芸術家や芸術文化団体、NPOや大学、都市開発事業者等の企業、都民や来訪者など、あらゆる人々や団体が、この文化ビジョンを実現するための担い手として不可欠な存在であることを呼び掛け、連携の構築や強化を推進していく。

世界に提示する8つの文化戦略

文化戦略が目指す方向性

文化戦略1

伝統と現代が共存・融合する
東京の独自性と多様性を追求し、
世界発信

- 伝統と現代が共存・融合する東京の芸術文化の魅力をも、より一層世界に浸透させていく。
- 東京の独自性の源泉ともいえる伝統文化を次世代に引き継ぎ、保存、継承、発展させていく。

文化戦略2

多彩な文化拠点の魅力向上により、
芸術文化都市東京の発信力を強化

- 多彩な文化的特徴を持ったそれぞれの地域において、芸術文化を都市の装置として機能させ、文化拠点として場の魅力を向上させる。

文化戦略3

あらゆる人が
芸術文化を享受できる
社会基盤を構築

- すべての子供や青少年、障害者が芸術文化を享受できる仕組みを推進し、世界をリードする成熟都市として、都市の豊かさを創出する。

文化戦略4

新進若手を中心に多様な人材を
国内外から発掘・育成、新たな創造と
ビジネスのチャンスを提供

- 世界を牽引し文化面で東京の活力を創出する新たな才能、人材の発掘や育成を、国際的な視点から展開していく。
- 国内外の才能ある芸術家やデザイナーなどを積極的に受け入れ、活動の場を提供することにより、彼らが

文化戦略5

都市外交を基軸に
芸術文化交流を促進し、
国際的な競争力を高める

- 国際的な発信力の高いフェスティバル等の構築とともに、アジアにおける芸術文化市場のハブ機能を強化し、拠点としての地位を堅持することによって、都市としての価値を高め、国際的な競争力を向上させていく。

文化戦略6

教育、福祉、地域振興等、
社会や都市の課題に、
芸術文化の力を活用

- 芸術文化の力を活用して、教育、福祉や医療、地域振興等の領域における課題の解決に貢献していく。

文化戦略7

先端技術と芸術文化との融合により
創造産業を発展させ、
変革を創出

- 時代を牽引する革新的な技術による新しい芸術文化の創造、流通、鑑賞・体験の可能性を追求する。

文化戦略8

東京が持つ芸術文化の力で、
都市力を引き出し
史上最高の文化プログラムを実現

- 2020年五輪大会を機に、都市自体を劇場とした、先進的で他に類を見ない東京の活力を象徴する文化プログラムを展開し、世界に向けて東京の魅力を発信する。

- 変貌し続ける現代社会における伝統の価値を見直し、その潜在力に新たな光を当てる。

- 世界の様々な人々に東京の芸術文化の魅力を理解してもらえるよう、多様な特徴を持つそれぞれの拠点を際立たせ、東京全体の魅力を向上させ発信する。

- 文化施設において子供や高齢者、障害者、外国人など、様々な人々がストレスなく芸術文化に触れることができる環境を整える。

- すべての市民が創造活動に参加でき、市民の主体的な活動が豊かな社会の未来につながっていく。

- 魅力を感じて自然と集まる世界的な拠点とし、文化都市としての実力とその更なる可能性を高めていく。

- 才能ある芸術家の革新的な表現を可能にすることや、その表現活動を経済的に発展させていく取組を支援する。

- 海外の主要な文化機関・組織とのネットワークを発展させ、異文化間の相互理解の継続的な促進を図り、文化面での都市外交を推進する。

- NPOや企業等、様々な組織と協力・連携関係を構築し、社会問題の解決を推進する先駆的、実験的な取組を積極的に支援していく。

- 才能ある多様で創造的な人材とグローバル企業との新たな出会いを推進し、東京の経済成長を牽引する創造産業の振興を促進させ、変革を促す寛容性の高い環境を創出する。

- 2020年に向けた取組を、オリンピック・パラリンピックの開催によって創出する有形・無形のレガシーにつなげていくとともに、それを次世代に継承し、世界一の文化都市東京を実現する。

東京文化ビジョンを実現する10の主要なプロジェクト

大規模フェスティバル(芸術祭)を展開、世界発信

伝統芸能、演劇、美術などあらゆる分野の芸術を集結させた都市型総合芸術祭を構築。いくつかの文化施設を核とした展開を図るとともに、小劇場や公共空間など、東京全体としての演出を行い、芸術分野の壁を越えたフェスティバルを構築

子供や外国人に向けた本物の伝統芸術体験による、伝統文化の継承と発信

能楽、邦楽、落語、茶道等、幅広く学校と連携した都内全域を対象とする小中学生等を対象とした伝統文化体験プログラムや、海外からの来日時に短時間で鑑賞・体験が可能なプログラムを展開

多彩な芸術文化拠点の魅力向上と世界発信

都立文化施設をはじめ、児童館や公民館など、多様なジャンルのアーティストとの交流や多彩な芸術文化体験ができる「場」を創出

「首都圏芸術文化施設ネットワーク(仮称)」の推進

上野において、芸術文化施設の連携により共通入場券の仕組みを導入。夜間集客数の拡大に向け、共通イベントの実施を提議

障害者アートへの支援や障害者の鑑賞・参加を促す活動の推進等、文化の面でバリアフリーな都市として認知される取組の展開

東京都現代美術館に「アールブリュット」発表の場を設置するとともに、障害者の芸術創造活動や鑑賞・参加を促すNPO等の活動を支援

若手の登壇門としての新人賞等の創設など、才能ある新進若手人材の積極的な受け入れや海外進出への支援

新進芸術家の国際的活動を支援する新人賞等の創設や奨学金等を活用した海外進出を支援。継続的に人材を育成

都市外交の基軸に芸術文化を位置つけた都市間交流の拡充

欧米各都市と現代美術、舞台上野、池袋、渋谷、六本木、東京駅周辺、港・品川開発エリア、臨海部、両国・深川、多摩・島しょ等の魅力を向上し、世界へ発信

すべての子供や青少年が芸術文化に関わることができる大規模な「教育プログラム(仮称)」を展開

都立文化施設をはじめ、児童館や公民館など、多様なジャンルのアーティストとの交流や多彩な芸術文化体験ができる「場」を創出

「首都圏芸術文化施設ネットワーク(仮称)」の推進

上野において、芸術文化施設の連携により共通入場券の仕組みを導入。夜間集客数の拡大に向け、共通イベントの実施を提議

リオ大会以降に展開される文化プログラムを先導する「リーディングプロジェクト」を国内外で展開

多様な分野の芸術家が参加する「東京キャラバン(仮称)」、大規模な「障害者アートプログラム」、リオ五輪での日本文化の紹介・発信、アーティスト・イン・レジデンスの整備などを展開

伝統と現代が共存・融合する 東京の独自性と多様性を追求し、 世界発信

- 伝統と現代が共存・融合する東京の芸術文化の魅力を、より一層世界に浸透させていく。
- 東京の独自性の源泉ともいえる伝統文化を次世代に引き継ぎ、保存、継承、発展させていく。
- 変遷し続ける現代社会における伝統の価値を見直し、その潜在力に新たな光を当てる。

東京が持つ芸術文化の力

- 東京の芸術文化は、現代と伝統が共存・融合する独自性・多様性に支えられており、過去・現在・未来を示す文化が、互いに影響し合い、その価値を高めている。
- 能や歌舞伎といった伝統芸能をはじめ、クラシック音楽、現代演劇・舞踊、ポップカルチャー^{※1}など、多種多様な芸術を誰もが楽しみ、受け入れる土壌がある。
- 現代的なファッション、デザイン、建築などの分野においては、伝統の中で培われ、生み出されてきた新たな潮流の発信源として、世界に新鮮な影響を与え続けている。

一流の芸術家の指導による、子供たちの伝統芸能体験の充実（平成25年度）
（東京発・伝統WA感謝「キッズ伝統芸能体験」）



日本舞踊×オーケストラvol.2「ボレロ」©Katsumi Kajiyama 写真提供：東京文化会館

施策の方向性

東京の多様で奥の深い
芸術文化を顕現した、
大規模フェスティバル(芸術祭)を
展開し、世界発信する

- 伝統芸能、演劇、舞踊、音楽、現代美術などあらゆる分野の芸術を集結させた都市型総合芸術祭を構築する。まず、伝統芸能も含めた舞台芸術において、芸術家など海外の人材も活用し、いくつかの文化施設を核とした展開を図るとともに、多数の小劇場や公共空間を組み合わせる形で東京全体としての演出を行い、芸術分野の壁を越えたフェスティバルを構築する。

東京の強みである技術力や
デザインと芸術文化を協調させ、
新たな作品創造や
芸術表現を生み出す

- 新たな領域を開拓していくため、時代を牽引する革新的な技術者や伝統工芸職人と芸術家との協創を推進する。

※1 一般大衆が広く愛好する文化のこと。一般的に、マンガ、アニメ、ゲーム、テレビ、映画、ポピュラー音楽などが含まれる。
※2 東京を世界一の都市とするため、観光圏における「東京ブランド」の確立に向け、都が策定した広域戦略

現代における伝統の意義を理解し、
次の時代に新たな文化を
創出するため、次代を担う
子供たちに伝統文化の価値を
正しく伝え継承する

- 能楽、邦楽、落語、茶道等、幅広く学校と連携した都内全域を対象とする小中学生等を対象とした伝統文化体験プログラムを展開する。

東京の芸術文化の奥底に
色濃く流れている、
長い歴史の中で培ってきた
日本の伝統文化の真髄を外国人に
伝える体験・鑑賞などの取組の強化

- 一流の実演家による能楽、舞踊、茶道、華道、民俗芸能の神楽、木遣りなど、来日時に短時間で理解するための体験・鑑賞プログラムを伝統発信拠点を中心に展開する。

海外向けの都市広報を強化し、
東京の芸術文化の魅力を
世界発信

- 国際的な放送事業者との連携や海外メディアとの関係構築による情報発信を展開するとともに、都の「ブランディング戦略」^{※2}に基づく取組の重要な要素としても国内外に広く発信する。



文化戦略

2

多彩な文化拠点の魅力向上により、 芸術文化都市東京の発信力を強化

- 多彩な文化的特徴を持ったそれぞれの地域において、芸術文化を都市の装置として機能させ、文化拠点として場の魅力を向上させる。
- 世界の様々な人々に東京の芸術文化の魅力を理解してもらえよう、多様な特徴を持つそれぞれの拠点を際立たせ、東京全体の魅力を向上させ発信する。

東京が持つ芸術文化の力

- 上野、六本木、池袋、東京駅周辺、渋谷には、美術館・博物館、ギャラリー、ホール、映画館など、膨大な数の多様な文化施設が集積している。
- アニメ、ゲームなどポップカルチャーで有名な秋葉原や、kawaii^{※1}を世界に発信するファッションの街・原宿、江戸の下町情緒を感じさせる神楽坂等、個性溢れる文化資源を持つ地域が数多く存在する。
- 市内には、今後都市開発に取り組む地域や、芸術系大学が集積した多摩地域等、芸術文化を都市の装置として機能させる潜在性を持った地域もある。

※1 近年、海外から注目されている、日本特有の「かわいらしさ」を表す言葉

施策の方向性

特徴的な芸術文化資源を持つ地域において、都、国、地元自治体、企業、芸術系大学、NPO、芸術文化団体等との「パートナーシップ^{※1}」の下で街づくりを活性化

- 上野「文化の杜」を中心とした日本を代表する文教施設が集積する「上野」
- 都市開発などと連動して文化資源の整備を推進する「池袋」「渋谷・原宿」「六本木・赤坂」「東京駅周辺」や、今後、大規模開発が進む「港・品川開発エリア」、競技会場が集中するとともに、オリンピック・パラリンピックのレガシーとして芸術文化を街の構成要素に取り込む「臨海部」
- 江戸東京博物館と東京都現代美術館を中心として伝統と現代が共存する「両国・深川・錦糸町」
- 郷土芸能をはじめとする伝統文化資源が数多くあり、複数の芸術系大学も立地する「多摩・島しょ」
- 民俗芸能、庭園、歴史的建造物や街並み、伝統工芸、伝統芸能、芸術、ファッション、ポップカルチャー等、文化的特徴を際立たせる文化資源を持つ東京の様々な地域
 - ▶ 芸術家や、街の文化機能を担う都市開発事業者、NPOなどと協働し、それぞれの芸術文化拠点の一層の魅力強化策を推進する。
 - ▶ 文化資源の特色を活かしたフェスティバル等、地域で検討された優れた芸術文化活動をアーツカウンシル東京が支援する。
 - ▶ オリンピック・パラリンピック開催に向けて実施する「リーディングプロジェクト」や文化プログラムを上野をはじめとする文化拠点で展開し、国内外の注目を集める。

海外向けの都市広報を強化し、文化拠点の魅力を世界発信

- 国際的な放送事業者との連携や海外メディアとの関係構築による情報発信を展開するとともに、都の「ブランディング戦略」に基づく取組の重要な要素としても国内外に広く発信する。

地域の街並みと歴史・文化が調和した歴史的景観の保全

- 景観上重要な歴史的建造物について、都の選定対象を拡大するとともに、歴史・文化・自然を兼ね備えた文化財において、戦災等で失われた建造物の復元・修復を推進する。



※1 友好的な協力関係、共有、連携



上図に示した以外にも、美術館や劇場等、東京には、あらゆる地域に、あらゆる文化資源が数多くある。

都が実施した「平成25年度国別外国人旅行者行動特性調査」における外国人旅行者が訪問した場所の上位を見ても、「新宿」は美術館・博物館・劇場・映画館・寄席等、多彩な文化資源が集積し、「浅草」は大衆芸能発祥の地として近代以後、興行街として発展してきた。「秋葉原」は世界的にポップ

カルチャーの代名詞ともなっており、「原宿」は世界の注目を浴びるファッションの街である。

これら地域の文化資源を活用した事業展開例としては、アーツカウンシル東京が地域NPO等と連携し、江戸情緒漂う「神楽坂」において、地域一帯を会場とし、伝統芸能の魅力が街なかの至る所で発信するイベント「神楽坂まち舞台・大江戸めぐり」等がある。

郷土芸能をはじめとする伝統文化資源が数多くあり、複数の芸術系大学も立地



多摩北部 同 部、市町村の郷土文化財等(※)を調査した結果(※)をまとめた。

立川市	獅子舞(市指定のもの)
武蔵野市	獅子(市指定のもの)
三鷹市	獅子(市指定のもの)、新編八幡社奉納獅子足し
府中市	武蔵野中の太鼓舞の習俗、武蔵野中のくらやみ祭、双龍さし、獅子(市指定のもの)
昭島市	拝島日吉神社の精進、中村の獅子舞、獅子(市指定のもの)
国分寺市	獅子(市指定のもの)
小平市	江戸のあまやつし人形、獅子(市指定のもの)、新編八幡社奉納獅子足し
東村山市	獅子(市指定のもの)
国立市	獅子(市指定のもの)
狛江市	獅子(市指定のもの)
東大和市	獅子(市指定のもの)
清瀬市	清瀬市下町の「ふせぎ」行事、中里の火の花祭、獅子(市指定のもの)、鷹門獅子
東久留米市	獅子(市指定のもの)、獅子(市指定のもの)
武蔵村山市	双龍さし、獅子(市指定のもの)、獅子(市指定のもの)、谷津日吉神社獅子舞
西東京市	獅子(市指定のもの)

多摩南部 同 部、市町村の郷土文化財等(※)を調査した結果(※)をまとめた。

八王子市	八王子草人形、獅子舞(市指定のもの)、新編獅子(市指定のもの)、木遣、上郷下のセエノカミ
町田市	獅子舞(市指定のもの)、獅子(市指定のもの)
日野市	獅子(市指定のもの)
稲城市	江戸の曳舟、稲城市日村の蛇より行事、獅子舞(市指定のもの)

※ 郷土文化財等については、「東京都文化財総合目録(平成26年12月)」を基に作成
 ※ 市町村の郷土文化財等における獅子・獅子舞等は分野としてまとめている。

多摩西部 同 部、市町村の郷土文化財等(※)を調査した結果(※)をまとめた。

青梅市	青梅市虎相神社の祭礼行事、武蔵国在神社太々神楽、沢井の獅子舞、獅子舞(市指定のもの)
福生市	獅子(市指定のもの)、ミキノク子の創作絵画
羽村市	獅子(市指定のもの)
あきる野市	秋川歌舞伎、菅生歌舞伎、獅子舞(市指定のもの)、獅子(市指定のもの)、神楽(市指定のもの)、西戸倉権杖い獅子舞(市指定のもの)、獅子(市指定のもの)
瑞穂町	獅子舞(市指定のもの)、獅子(市指定のもの)
日の出町	下平井の風流の舞、双龍さし、獅子舞(市指定のもの)、獅子(市指定のもの)
檜原村	檜原村春日神社の奉納神楽、檜原村の式三番、小沢の式三番、新野の式三番、柏木野の神代神楽、数馬の太鼓、数馬の獅子舞、数馬の獅子舞
奥多摩町	小河内の舞臺、小河内の郷土舞、小宮渡の獅子舞、神楽の神楽、獅子舞(市指定のもの)

島しょ 同 部、市町村の郷土文化財等(※)を調査した結果(※)をまとめた。

大島町	西三八幡神社の正月祭、古谷神社の正月祭、神楽(市指定のもの)
利島村	利島八幡神社の御願馬
新島村	新島の笠巻、新島の太鼓、新島の神楽、獅子木遣
神津島村	神津島のかつお祭り行事
三宅村	三宅島の神楽、三宅村坪田のヨミンチャフ、高野神社の送り神楽、高野神社の神楽、御坊神社の神楽、三宅島の歌と道
御蔵島村	御蔵島の歌と道
八丈町	八丈島の笠巻、八丈島の民謡、神立の海坊、神立の手道
青ヶ島村	青ヶ島の島唄
小笠原村	小笠原の南洋唄、小笠原の民謡



- 伝統文化以外の現代的な文化資源も数多く存在する。いくつかの例を挙げると、
- 数多くのパブリックアート^{※1}で街を飾る地域
 - 漫画・アニメの舞台として、多くの若者を惹きつける地域
 - ライブハウスも多く、音楽の街としても知られる地域
 - 文学賞や新しい形の都市型文学関連施設を展開する地域
 - 映画看板が街中に掲げられ、昭和時代の雰囲気を感じ出す地域

- 映画・映像関連企業が集積し、市民による映画祭などを展開する地域
 - 2年ごとの美術展覧会の開催により、芸術の力を原動力にした新たな街を発信する地域
 - 世界に愛されているキャラクターを活用し、企業等と協力・協働して活性化に取り組む地域
- など、その魅力は多岐にわたる。

※1 広場、道端、公園などの公共空間に設置される芸術作品

あらゆる人が 芸術文化を享受できる 社会基盤を構築

- すべての子供や青少年、障害者が芸術文化を享受できる仕組みを推進し、世界をリードする成熟都市として、都市の豊かさを創出する。
- 文化施設において子供や高齢者、障害者、外国人など、様々な人々がストレスなく芸術文化に触れることができる環境を整える。
- すべての都民が創造活動に参加でき、都民の主体的な活動が豊かな社会の未来につながっていく。

東京が持つ芸術文化の力

- 東京・日本では幼少期からピアノ、ヴァイオリン、バレエ、書道などを習う子供が多く、都民たちが創作した作品の発表活動も活発に行われているなど、巨大な文化交流の基盤が存在する。
- 東京では、各地の公立美術館や公民館などの公共施設が、都民の文化活動に利用されている。また、文化に関心を寄せる企業も多く、美術館や博物館、劇場や音楽ホールなどを設置し、芸術文化の振興に貢献している。
- 様々な団体が芸術文化振興に携わっており、都民が伝統から現代までの多彩な芸術文化に身近で気軽に触れられる等、文化的刺激に満ちた豊かな日常生活を楽しむことができる機会が数多く存在している。

視覚障害者と一緒に見る鑑賞プログラムでのーコマ(東京都現代美術館 2014年、撮影:中島社)



平成21年度東京芸術劇場 発表公演
「ワフォー・マン・スキップ・トーキョー」
「からだのキモチ」©高島聖子

施策の方向性

すべての子供や青少年が芸術文化に
主体的に関わることができる
「教育プログラム(仮称)」の確立

- 学校や学童クラブ、公民館等の様々な場所において、様々な分野の芸術家との交流や芸術文化体験ができる「場」を創出する。また、学校における教育活動等においても、子供たちが日本の伝統文化はもとより、海外の芸術文化に触れられる機会を拡充する。
- 都立文化施設において、芸術系大学や芸術文化団体等と連携し、子供たちが本物の芸術文化を体験するワークショップ^{※1}を積極的に展開する。それらの取組を発信し、国公立や民間の文化施設へ波及させる。

都内文化施設の魅力向上及び
「首都圏芸術文化施設ネットワーク
(仮称)」の推進

- 上野において、芸術文化施設や交通機関と連携したICカードなどを使った共通入場券の仕組みを導入する。これを踏まえ、首都圏における広域入場券として拡大する。
- 開館時間延長などを通じた夜間集客数の拡大に向け、共通イベントの実施を提唱
- 都立施設における多言語化や「Wi-Fi」整備、収蔵品や展示品のデジタルアーカイブ^{※2}化など、ソフト面での充実を図る。
- 舞台・施設機能の強化や施設のバリアフリー化等を図るための東京文化会館の全面改築、江戸東京たてもの園の展示建物やその他各館の収蔵機能の充実などハード面での検討も進め、世界に開かれた魅力溢れる文化施設として国内外に発信



障害者アート^{※3}への支援や障害者の
鑑賞・参加を促す活動の推進等、
文化の面で世界で最も進んだ
バリアフリーな都市として
認知される取組の展開

- 東京都現代美術館に「アールブリュット」^{※4}の発表の場を設置するなど、都立文化施設が民間文化施設等と共に障害者アートの東京としての存在感を発揮していく。
- 作品の創作・展示環境を備え、自治体、大学、福祉施設、NPO等の地域の関係者とアールブリュットの拠点を多摩地域に形成する。
- イギリスの「アンリミテッド」^{※5}などと連携し、障害者の芸術創造活動や鑑賞・参加を促すNPO等の活動を支援する。

東京で開催される展覧会や
公演情報の集約化と
多言語化の推進

- 都内の芸術文化情報を一元的に収集・閲覧できるホームページを民間企業等と共同で構築する。

※1 芸術家等の専門家の指導を受けながら、参加者が共同で創作、鑑賞、鑑賞等を行う活動
※2 博物館、美術館、公文書館などの所蔵資料を電子化して保存・公開するシステム
※3 障害者による芸術文化の創作・発表活動のこと。
※4 フランス語で「生(色)の芸術」の意。フランスの画家ジャン・デュビュッフェにより提唱された「美術教育を受けていない人などが、既成の表現法にとらわれず自由に制作した作品」をいう。対象には障害者の作品や芸術文化を指す。
※5 英国で実施されている障害者による芸術文化活動の支援事業。

新進若手を中心に多様な人材を 国内外から発掘・育成、新たな創造と ビジネスのチャンスを提供

- 世界を牽引し文化面で東京の活力を創出する新たな才能、人材の発掘や育成を、国際的な視点から展開していく。
- 国内外の才能ある芸術家やデザイナーなどを積極的に受け入れ、活動の場を提供することにより、彼らが魅力を感じて自然と集まる世界的な拠点とし、文化都市としての実力とその更なる可能性を高めていく。
- 才能ある芸術家の革新的な表現を可能にすることや、その表現活動を経済的に発展させていく取組を支援する。

東京が持つ芸術文化の力

- 歴史的建造物と新しな現代建築が共存する街並み、江戸時代から続く伝統や技、日々の暮らしに彩りを与えてくれるデザイン、展覧会やコンサート等、東京の都市の魅力は多様な人材・技術者による創造活動に支えられている。
- 特にポップカルチャーと言われる分野での芸術家・作家(クリエイター)たちの自由な発想は、世界からも注目を浴びている。
- 東京には芸術系の教育機関が集積し、芸術やデザインの未来を担うクリエイターを志す学生数は世界有数の規模を誇っている。

アーティスト・イン・レジデンスでの創作風景



アートフェア東京 2014会場風景 / 撮影: 新下京利

施策の方向性

様々な国の芸術家が集い、
国境を越えた交流・協働を育む
都市として、創造基盤の
整備を推進

- 自治体や企業、NPO等と連携し、空き店舗や古民家などを活用したアーティスト・イン・レジデンス^{※1}の整備を推進。多様な芸術分野の才能ある人材を積極的に受け入れ、交流を促し、作品の創作に向けた新たな発想や表現を生み出す場として展開する。

現代美術、音楽、演劇、映像など、
国際的に高い発信力を持つ才能の
海外進出を支援

- 才能ある芸術家と海外の批評家や有力キュレーター^{※2}などとの出会いの機会や作品の販売を通じた自立につながる海外進出を、様々な支援機関が有する奨学金制度等も活用して、推進する。

- 世界において活躍が期待できる新進芸術家を表彰し、将来の国際的活動を支援するなど、若手の登竜門として位置付けられる新人賞等を創設し、その価値を高めていく。

東京都現代美術館等を核とした
世界的魅力を持つ

創造拠点・発表の場の創出

- 内外の美術館との連携により、東京都現代美術館を世界に冠たる現代美術の創造と発表の場とする。
- 現代美術の分野で新人賞等を得た若手芸術家に対しては、東京都現代美術館における展覧会の道を開く。

ビジネスチャンスの提供と
新たな創造を支える
仕組みの構築

- 市場の創出や販路の拡大などに精通したアートマネジメント^{※3}等の人材や、芸術文化を支える技術者を育成するため、企業、芸術系大学、NPOや芸術文化見本市等と連携の上、育成カリキュラムの作成や相互交流等を進めていく。

※1 国内外から芸術家を一定期間招へいし、滞在中の創作活動等を支援する事業のこと。
 ※2 美術館や博物館等において、その施設が収集する資料に関する調査研究や、学芸員としての専門知識を活かした展覧会の企画等を行う人のこと。
 ※3 公演や展覧会等の企画や制作、事業資金の獲得など、芸術文化の作り手と受け手をつなぐために必要となること。



都市外交を基軸に 芸術文化交流を促進し、 国際的な競争力を高める

- 国際的な発信力の高いフェスティバル等の構築とともに、アジアにおける芸術文化市場のハブ機能^{※1}を強化し、拠点としての地位を堅持することによって、都市としての価値を高め、国際的な競争力を向上させていく。
- 海外の主要な文化機関・組織とのネットワークを発展させ、異文化間の相互理解の継続的な促進を図り、文化面での都市外交を推進する。

東京が持つ芸術文化の力

- 東京は、海外から年間約680万人を超える外国人を迎える世界でも有数の国際都市として発展。国内外の一流オーケストラの演奏会や世界有数の美術館が日常的に開催される文化都市である。
- 東京都美術館の改修後オープン記念として開催されたマウリッツハイム美術館展は、世界で最も来場者の多かったイタリア・ウフィツィ美術館の789,241人に次ぐ758,266人を記録する展覧会となるなど、芸術文化に関心が高い市民を持つ東京の潜在的な消費力は高く、アジアの拠点としての文化的な価値を発揮している。

英韓官民交流団 イングリッシュポイント(東京発・伝統WA感動「東京大茶会2014」)



施策の方向性

ベルリン芸術祭^{※2}等、世界クラスのフェスティバルに匹敵する大規模フェスティバルを構築し、世界発信

- 伝統芸能、舞台芸術、音楽、現代アートなどの都市型総合芸術祭を構築する。まず、伝統芸能も含めた舞台芸術において、国内外の芸術家などを活用し、いくつかの文化施設を核とした展開を図るとともに、多数の小劇場や公共空間を組み合わせる形で東京全体としての演出を行い、ジャンルの壁を越えたフェスティバルを構築する。

都市外交の基軸に芸術文化を位置づけた都市間交流の拡充

- ロンドン、ベルリン、パリ、ニューヨーク等の欧米各都市と現代美術、舞台芸術、映画、アールブリュットなどによる都市間交流を拡充する。
- 北京、ソウル等のアジア都市とも、都市歴史博物館の文化交流や、舞台芸術、映画、伝統文化などによる都市間交流を促進する。

海外の芸術文化団体、文化施設との連携を強化し、国際的な発信力を高め、芸術文化交流を積極的に展開

- 美術館・博物館・劇場・音楽ホールが持つ海外ネットワークを更に強化し、各施設の収蔵品や研究成果を活かした発信力の高い企画展など、連携を積極的に促進する。
- アーツカウンシル・イングランド^{※3}などの海外の芸術文化支援機関との連携により、シンポジウムや公開討論などを行う。
- 世界文化都市会議などの国際会議を活用し、東京の文化政策を発信するとともに、各都市との芸術文化交流や提携を深める。



六本木アートナイト2009の様子
©六本木アートナイト実行委員会

※1 経済活動の中心、結節点とは、あらゆる方向から人、物、金、情報が集まり、交流や交換がなされ、様々な方向へ拡散していく中心地(結び目)のことである。ここでは、「東京が芸術文化分野の中心地である」ということを表している。
 ※2 ドイツのベルリンで毎年開催されている芸術祭。土に演劇、音楽、美術、文学、映画等の分野を対象としており、ドイツ国内はもとより世界中の優れた芸術家を招き、各分野ごとに毎年開催されている。
 ※3 イギリスのイングランドを管轄区域としている芸術支援団体。英国の代表的な芸術機関や文化施設への資金提供や様々な文化事業を対象とする公営型の助成を行っている。

教育、福祉、地域振興等、 社会や都市の課題に、 芸術文化の力を活用

- 芸術文化の力を活用して、教育、福祉や医療、地域振興等の領域における課題の解決に貢献していく。
- NPOや企業等、様々な組織と協力・連携関係を構築し、社会問題の解決を推進する先駆的、実験的な取組を積極的に支援していく。

東京が持つ芸術文化の力

- 東京は、世界が経験したことのない超高齢化社会をはじめ、少子化、人口減少等、都市の課題が先鋭的に現れる都市である。芸術文化の視点から、これらの課題解決に向けた取組を牽引していくことが期待されている。
- 東京をはじめ日本は、東北の震災を経て、芸術文化によって生まれる人とのつながりや心のケアの重要性を経験した。
- 近年、芸術文化が教育、福祉や医療、地域振興などの面で大きな成果を挙げるなど、芸術文化ならではの解決方法を社会にもたらすようになっている。それらの活動は地域の芸術文化活動として、NPOを中心に草の根の活動として広がりを見せつつある。

子供たちの豊かな感性を育む芸術文化プログラム（「Museum Start おいっすの」東京文化発信プロジェクト室、東京御英館、東京藝術大学）



施策の方向性

街づくり等における
課題の解決を推進する先駆的な
芸術文化活動や
実験的な取組の推進

- 地域のコミュニティづくりなどにおいて、青少年や高齢者等の市民が芸術家やNPOなどとともに行う芸術文化活動の取組を支援する。

東日本大震災の被災地や
全国の地域づくりの
取組などにおける、
芸術文化を用いた交流の場を創出

- 多彩な芸術文化活動により地域のにぎわいの創出を展開している芸術家やNPO等の先駆的な取組を積極的に発信し、東京から全国に広げていく。

子供や高齢者、外国人等と
芸術文化をつなぐ
民間活動への支援

- 子供の可能性を引き出すことを目的に、演劇ワークショップなどを展開する子供と芸術文化をつなぐNPOや芸術系大学の取組などを支援するとともに、民間文化施設と連携した取組を推進する。併せて、高齢者や外国人等と芸術文化をつなぐ民間団体や企業などの取組も支援する。

芸術文化以外の領域で活躍する
先駆者と芸術家などとの
異分野交流による新たな
社会問題解決手法の創出

- インターネットを活用したコミュニケーションソフトの開発者など、芸術文化以外の領域で活躍する先駆者と芸術家や芸術文化団体との交流を推進し、様々な社会問題の解決に取り組む。



小金井アートフル・アクション！
市民とアーティストが協働した作品の制作「子どもたちのつくる宇宙」
小金井市立さくら保育園 アーティスト：中島崇



ヘブンアーティストによる被災地支援

先端技術と 芸術文化との融合により 創造産業を発展させ、 変革を創出

- 時代を牽引する革新的な技術による新しい芸術文化の創造、流通、鑑賞・体験の可能性を追求する。
- 才能ある多様な創造的な人材とグローバル企業^{※1}との新たな出会いを推進し、東京の経済成長を牽引する創造産業の振興を促進させ、変革を促す寛容性の高い環境を創出する。

東京が持つ芸術文化の力

- 東京・日本は、モノと人がつながっている伝統的なものづくりの精神に支えられ、工業生産で用いられるロボット技術はもとより、介護ロボット、人間型ロボットといった日常的な生活の中で人間と共存するロボット技術等、独自の発想により世界の様々な技術革新を牽引している。
- 近年では、先進的な技術と芸術を組み合わせ、新たな表現活動を追求するメディア芸術^{※2}の世界においても、世界的評価を得ている。
- アニメ、ゲーム、デザイン、ファッション、映像といった東京発のポップカルチャーも世界で高く評価され、それらを含む最先端の創造産業が集積、進化する都市として、その地位を確立している。

六本木アートナイト2012の様子



施策の方向性

東京の強みである高度な技術力と芸術家の柔軟な創造力により先端技術と芸術文化を融合させ、新たな作品創造や芸術表現を生み出す

- 新たな領域を開拓していくため、革新的な表現を行う芸術家と時代を牽引する先端技術を持つ技術者や企業との出会いの場を創出していく。
- 新たな芸術作品の制作発表の場として、東京都現代美術館をはじめとした都立文化施設を活用する。

最先端の技術を活用した

創作・鑑賞・体験システムの構築

- 新技術を駆使した演劇、音楽等の公演や、世界中の人々が東京から発信される芸術文化を、世界中のどこでも鑑賞・体験できる事業など、情報技術の革新が日進月歩で進む現代ならではの仕組みを企業等と開発する。

創造産業の活性化を促す

環境の整備

- 都市開発に創造産業の機能を取り入れ、拠点化を計画する都市開発事業者をはじめ、教育機関や企業などと協力して、創造産業の人材育成等の活性化を促進する。
- 開発理念(コンセプト)、技術、品質など、物質的な特性はもとより、様々な社会課題の解決に向けた方策を、視覚、触覚等により簡潔に表現し伝えるための重要な手段として、デザインを戦略的に活用するための環境整備を促進する。



第7回東京国際映画祭「超絶で会いましょう」展示より
山口典子(仮名)「GIRL」2015年
写真：黒井孝明 提供：東京都写真美術館

※1 巨大な資本力をもつ、業績の別に生産・販売の拠点をもち大規模な企業、世界企業、国際企業

※2 文化芸術振興基本法によると、映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術と定義されている。



東京が持つ芸術文化の力で、 都市力を引き出し、 史上最高の文化プログラムを実現

- 2020年五輪大会を機に、都市自体を劇場とした、先進的で他に類を見ない東京の活力を象徴する文化プログラムを展開し、世界に向けて東京の魅力を発信する。
- 2020年に向けた取組を、オリンピック・パラリンピックの開催によって創出する有形・無形のレガシーにつなげていくとともに、それを次世代に継承し、世界一の文化都市東京を実現する。

東京が持つ芸術文化の力

- 都はこれまでの間、文化事業の強化を行うために、2006年に東京芸術文化評議会を設置。2008年4月には「東京文化発信プロジェクト」を立ち上げ、国際社会における東京の文化的な知名度の向上を目指し、多様な文化事業を推進してきた。
- さらに、東京都美術館や東京芸術劇場、東京都庭園美術館などの大規模改修にあわせて各施設の事業を拡充。2012年11月には民間の芸術文化活動の支援機関であるアーツカウンシル東京を発足させるなど、着実に、2020年大会の文化プログラムを推進する基盤を整備している。



アーツカウンシル東京オープンフォーラム(2014年)
撮影：野井卓

施策の方向性

2016年リオ大会以降に展開される文化プログラムの先導的役割を果たす「リーディングプロジェクト」を国内外で展開

- 伝統芸能や演劇、音楽、映画、大道芸など多様な分野の芸術家が参加する「東京キャラバン(仮称)」を実施する。
- 国内外の多くの健常者と障害者が交流し、芸術文化を創造・体験する「障害者アートプログラム」を展開する。
- 世界中から人々が集まるリオ五輪の機会を捉え、日本の多彩な伝統文化等を発信する。
- 小中学生等を対象とした伝統文化体験プログラムや伝統文化の真髄を外国人に伝える体験・鑑賞プログラムを展開する。
- 自治体や企業、NPO等と連携し、空き店舗や古民家などを活用したアーティスト・イン・レジデンスの整備を推進する。

都市を劇場とした先進的で他に類を見ない文化プログラムを展開し、東京の魅力を世界に発信

- 2019年ブレ大会や2020年本大会において、美術館・博物館、劇場ホールをはじめ、公園、道路、寺社仏閣等の公共空間も活用し、伝統芸能からポップカルチャーに至る多彩な芸術文化を、多くの人々が日常生活の中で体験できるような新たな試みを、国や関係者と連携し都市全体で展開する。
- 世界五大陸の音楽家によるオペラの制作・公演など、世界中の様々な分野の芸術家を東京に集結させ、多彩な芸術文化活動を共に展開する。
- 様々な事業ごとにプロデューサーを選任するなど、芸術文化事業の運営管理体制を確立させ、各事業を着実に開催する。

2020年大会に向けた取組を通じて、有形・無形のレガシーを創出し、次世代に継承

- 「リーディングプロジェクト」や文化プログラム、「教育プログラム(仮称)」、世界中の芸術家による交流・創造・発信など、東京文化ビジョンを実現するための取組を通じて得られた人材やその知見や体験等をレガシーとして、次代に継承する。

東京文化ビジョンの実現に向けて

様々な主体との 強固なパートナーシップによる 全員参加体制の構築

芸術文化を多くの都民と共に 作り上げるための仕組みづくり

すべての都民が気軽に作品を創造・発表できる舞台や都民相互の意見交換が可能な環境を、日常の身近な場所やインターネット上に作っていく。

- ▶ SNS等を活用した多くの人が参加可能なコミュニケーション手段の構築
- ▶ 庭園や公園など、都市の空間を活用した発表の場の提供

国、自治体、企業、教育機関、芸術家、 芸術文化団体等との連携

東京は、企業メセナ^{※1}やNPOが活発に芸術文化活動を展開している。また、文化拠点では、芸術文化機能を取り込んだ都市開発が推進されている。東京文化ビジョン実現に向けて、これらの多様な主体と連携していく。

- ▶ 国や自治体はもとより、企業、NPO、交通事業者等、様々な主体が参画する芸術文化戦略の推進機関の設置

オリンピック・パラリンピック

組織委員会との連携

開催都市である東京は、組織委員会が策定する「TOKYO2020ビジョン」の基本コンセプトである「全員が自己ベスト」「多様性

と調和」「未来への継承」を踏まえ、東京文化ビジョンを実現するための具体的な取組を推進する。

- ▶ リオ五輪開催時に組織委員会等と連携し、日本の多彩な伝統文化等を発信する「リーディングプロジェクト」を展開

全国との連携による

東京発・日本文化の魅力発信、 東京の芸術文化と 地方文化の相互交流

日本の首都である東京は、全国の特徴ある様々な地方文化が集まり、発信するハブ機能を担っている。都は、各道府県と連携し、東京を日本文化を世界に発信する舞台にしていくとともに、東京で展開される多様な芸術文化と地方の特色ある文化事業の共同制作を推進する。

- ▶ 外国人が東京において地方文化を体験・鑑賞できる環境の整備
- ▶ 様々な芸術文化資源を活用した地方と東京の共同制作の推進

※1 企業が、即時的な販路拡大・広告宣伝効果を求めず、社会貢献の一環として行う芸術文化支援のこと。具体的には、美術館や音楽会の土曜、芸術文化団体への助成、文化施設の運営などが行われている。



芸術アートファクトリー計画「FABスターターズガイド」

六本木アートナイト2014の様子

史上最高のオリンピック・ パラリンピックを実現する 執行体制の整備

芸術文化施策の中核的役割を担う アーツカウンシル東京の

体制・機能強化

都は、世界各国に設置されている芸術文化支援機関である「アーツカウンシル」を、日本で初めて本格的に設置。今後、文化プログラムの展開はもとより、東京の芸術文化施策の中核的役割を担う存在として、アーツカウンシル東京の更なる体制と機能強化を図っていく。

- ▶ アーツカウンシル東京の大幅な人員増やアーツカウンシル・イングランド等の海外の芸術文化支援機関との相互交流
- ▶ 「リーディングプロジェクト」等、東京文化ビジョンを実現する中核的な機関として多様な事業を推進

2020年東京五輪大会を踏まえた

都立文化施設の

新たな運営方針の策定

都には、伝統、現代美術、演劇、写真、音楽など、多彩かつ日本有数の都立文化施設が7館ある。東京文化ビジョンの実現に向けては、これらの都立文化施設を最大限に活用し、世界的な施設へと変貌を遂げることを目指す。

- ▶ 各館の運営方針に基づく新たな運営方針を策定し、実現に向けた様々な事業を展開

東京都芸術文化振興基金の創設

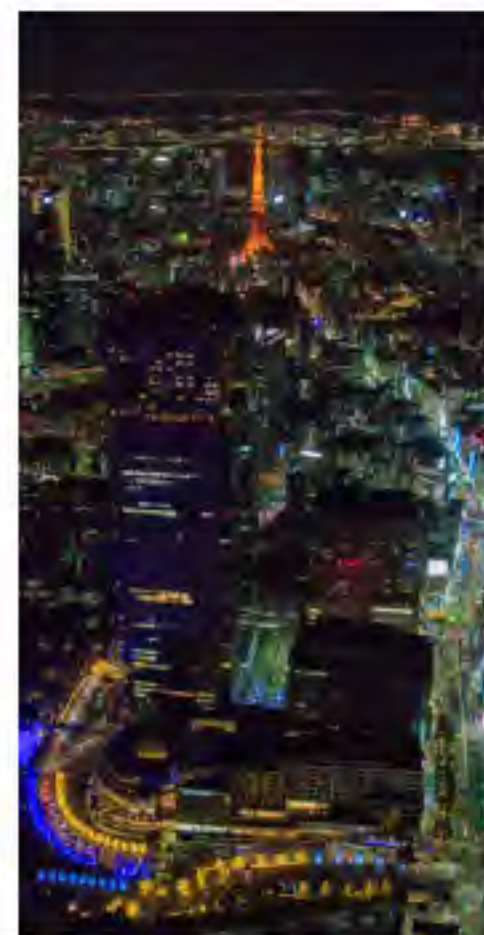
東京文化ビジョンを具体化するための財政的な裏付けとして、芸術文化振興基金を設置する。

- ▶ 東京文化ビジョンを実現するための基金の効果的活用

芸術文化の力を 東京のブランド価値として 活用し、国内外へ発信

伝統と現代が共存・融合する東京の芸術文化の独自性・多様性をブランディング戦略の重要な要素として国内外に広く発信する。

- ▶ 東京文化ビジョンに基づくプロジェクト発信の際のシンボルとして東京ブランドロゴ・キャッチコピーを活用するとともに、東京ブランドコンセプトの共有の場とするなど、連携した取組を推進
- ▶ 東京の多様性を顕現した大規模フェスティバルや、先端技術と芸術文化の融合による新たな作品創造等を東京ブランドの一つとして発信
- ▶ 世界都市文化会議等の様々な機会に東京の文化の価値を東京ブランドの一つとして発信



東京文化ビジョン

印刷物規格表 第2種
印刷番号 (28)66

平成27年3月31日 発行

編集・発行 東京都生活文化局文化振興部企画課管理課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03(5388)3151 FAX 03(5388)1327
Eメール S0000572@section.metro.tokyo.jp

編集・印刷 (株)美術出版社
〒102-8026 東京都千代田区五番町4番地5
五番町コスモビル2層
電話 03(3234)0807 FAX 03(3234)9451

デザイン (株)エディグラフィック
〒107-0062 東京都港区南青山一丁目
21番6号 ル・ポールビル2層



大塚神楽 (Memorial Rebirth 千住 2014 大塚山)
(アートアクセスあだち青まち千住の隣)